

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270300167		
法人名	有限会社 佐香		
事業所名	グループホーム 四季彩 さくら棟		
所在地	島根県出雲市灘分町204-2		
自己評価作成日	平成30年2月9日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/32/">http://www.kaigokensaku.jp/32/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 ケーエヌシー(福祉サービス外部評価事業部松江MSIC)		
所在地	島根県松江市黒田町40-8		
訪問調査日	平成30年2月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は旧平田市の斐伊川土手の近くの田畑や住宅などに囲まれた穏やかな環境の下にあります。基本理念は「ゆっくりと 何度でも繰り返し その人らしい穏やかな暮らしが共に彩れるケアに努めます」。

春にはひなまつり、花見、そうめん流し、七夕会、四季彩まつり、紅葉見学、クリスマス会、新年会など都度ご利用者の状態に合うよう工夫をしながら季節を感じていただける行事を行っています。

日々のレクリエーションの他、気候の良い時には、ご近所の作られた畑や花壇を眺めながら散歩を行っています。地域の方には挨拶をしていただいたり、防災訓練に参加していただいたり、雪かきを手伝っていただいたりなど年間を通して温かく見守っていただいています。

当事業所グループホーム四季彩(以下「ホーム」という。)は、斐伊川から一望する田畑や住宅等が四季折々に和む自然環境のなかにある所に位置し、ホーム利用者ケアの拠りどころである基本理念の意識づけは引継ぎ等で反復継続され、利用者主体の支援に努めている。年間行事は、利用者へ寄り添って行われ、四季彩たよりに編纂されて、利用者家族等への情報発信となっている。外出は、地域住民の畑や花壇を眺める利用者は気分転換を行い五感刺激の機会を得る支援となっている。二月なかばの降雪大雪に見舞われたときは、地域住民は雪かきの手伝いに馳せ参じ又、防災訓練には積極的に参加をするなど、地域住民からホームの安全安心を見守って貰っている感謝が職員のケアサービス質確保のモチベーションとなってサービス提供の意欲向上に繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、毎朝申し送り時に唱和し常に意識し理念に添ったケアができるよう心掛けている。	事業所基本理念は玄関とホールに掲げ、管理者職員はその理念を共有し、意識づけを毎朝の申し送り時や会議等で話し合っ て個々に適ったケアの実践を心掛け、振り返りを行い、基本理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の敬老会に参加したり、ボランティアが定期的に来てくださっている。避難訓練時には避難の協力をいただいているが、日常的な交流は行っていない。	地域住民の一員として自治会に加入し、婦人会の抹茶会、老人会の慰問、散歩時は野菜をくれる人等、地域の人とふれあう機会は多くボランティアとの交流は積極的にもち、避難訓練は地域住民と連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域代表の方が参加される運営推進会議で事例と対応について報告したり避難訓練時に協力して下さる地域の方に介助方法について話す機会はあるが地域貢献は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での行事、日常の取り組みを報告し地域の方々から意見やアドバイスをいただきサービス向上に活かしている。	2カ月1回の運営推進会議は、施設行事やケアの取組、市担当者の意見、地域住民の地域の情報問題点等の指示は、双方向的に話し合いが行われ、利用者に必要な支援はサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり介護相談員に来ていただいている。何かあれば相談できる体制ができている。	運営推進会議に参加の出雲市担当者とは連絡を密にし、出雲市委嘱の介護相談員の来訪があり、現場や利用者の課題解決に相談できる協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度身体拘束の研修に参加し、参加した職員を中心に施設内研修を行い共通理解に努めている。	年一度身体拘束研修に職員は参加をして、身体拘束が身体的、精神的苦痛であることは、会議時に研修参加職員が中心となって職員全員の研修を行い、拘束は駄目との意識付け、禁止対象の具体的な行為の理解を共有し、抑圧感のないケアに努めている。	身体拘束研修にとどまらず、利用者家族等の顧客満足度を高めるために職員の資質向上を確保する研修に参加の機会が増える事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加した数人の職員を中心に施設内研修を行い、虐待につながる不適切なケアをしていないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の事例があり、職員には研修に参加し理解している者もいるが、話し合いや活用の支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退所時とも十分に説明を行い同意を得た上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは計画作成者が定期的に意見を聞くほか、日常生活の会話の中から要望をくみ取るように努めている。また、家族の面会時には近況報告を行い要望を伺うようにしている。	ケアプラン担当者は、定期的に利用者から意見を傾聴し何げない会話により食事内容や夜間トイレ等の要望を引き出す努力を行っている。家族面会時は近況報告を行い要望を把握して、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は合同会議に出席するなど意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案を元に話し合い、結果として反映されることもあるがされない時こともある。	ユニット会議、代表者が出席する合同会議では、代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設け、脱衣場の寒さ対策はガスに変更される等運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は随時職員の意見を聞き、必要に応じて会議の議題として挙げる等している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けているが積極的な参加は少ないため必要な研修には参加を勧めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や小規模ケア連絡会に加入し、研修には参加しているがその後の取り組みには活かされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の顔合わせの時から、介護職員も同行し関わるようにしている。本人からの言葉以外での不安などを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の施設見学、契約時に家族と情報交換を行ない悩みや訴え要望を聞き把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に情報収集を行い、本人や家族の他、医療関係者や在宅のケアマネージャーなどの意見も参考にして話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や入居前の生活の様子を共有し利用者の状態や希望に合わせた役割をしてもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況に配慮しながら美容院や病院受診、外出などの支援をお願いしている。電話や手紙などを希望された時には支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人・近所の方の面会、手紙のやりとりをされる方、行きつけの美容院の利用、墓参り、地元でのそば打ちに参加される方がおられるが、入居前の関係が継続できている方は少ない。	友人、近所づきあいの人が訪ねて来る等馴染みの人との関係の継続、行きつけの美容院、墓参り、住んでいたところのそば打ちに参加する等場所との関係の継続は、入居時から途切れなでいる利用者は少数である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や状態を把握し、気が合う人同士が会話を楽しめるようホールでの座席を配慮している。また場面に応じて席を変えている。意思の疎通が困難な利用者には職員が間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば行っているが積極的には行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を都度確認している。困難な場合は家族からの情報や本人の思いを感じとるようにしている。職員間での話し合いを行っている。	日々の暮らしにかかわる中で、一人ひとりの希望とか意向を聞き出しながら、利用者の思いを確認し、意思疎通が困難な利用者は、家族からの情報も得て、職員は利用者本位にケアの検討をおこなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活歴や暮らし方の情報収集を行っているが、入所後も新たな情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化があれば詳しく記録をして申し送り情報を共有し、必要に応じて話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の暮らしの現状を把握し、主任や計画作成担当者を中心に必要に応じて家族への相談や話し合いを行い、介護計画作成に活かしている。	介護計画は、利用者の暮らしの現状について家族との相談話し合いにより、ケアプラン担当や主任を中心にアセスメント、カンファレンスを行い、利用者の思いや意見は一カ月毎のモニタリングを活かして作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員の対応、結果、気づき等を介護記録に記入し情報の共有を行い実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化によって生まれるニーズへの対応については1人の職員で判断するのではなく職員間で話し合い様々な視点からの対応を検討するようにしている。柔軟な支援や多機能化は今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により地域での協力体制ができており地域の行事に参加する機会もあるが地域資源の活用については検討の必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回かかりつけ医の往診を受け、体調不良時などは相談の上協力医への受診も行っている。	かかりつけ医の往診は、定期的に行われ、体に痛みがある時、発熱が続いている時、急変時は家族等の希望に対処して、協力医の受診につなげ、複数の医療機関との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは日誌での申し送りの他、口頭でも確認している。看護師不在の際は電話で伝え対応について指示を受ける体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、相談員等と連携を取り情報交換を行なっている。退院時には医療機関のカンファレンスに参加し必要に対応など理解できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関する指針を説明している。職員は重度化や終末期の支援についての研修に参加し理解を深める必要がある。	看取りに関する指針は整い、利用者家族には入居時説明が行われている。利用者の重度化、終末期の看取り研修には参加をして、支援についてスタッフ職員、かかりつけ医、協力医等医療機関、各方面に呼びかけて行う看取りの取り組みは準備段階である。	看取りの実践は、家族との連携を深めることに意識づけが行われている。重度化や終末期の看取り研修会への参加は内部研修に活かして、家族等の理解を一層深める機会を設けて、看取りの実践工夫が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時の対応については、都度対応に改善すべき点があれば周知している。バイタルサインについては3月に講習予定であるが、実践力を身に付ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災の避難訓練のうち1回は夜間想定訓練、1回は消防署と連携し地域の方にも参加いただき実際の避難場所まで避難している。水害時の避難訓練も行った。	避難訓練は水害を想定し、地域住民や消防署の参加、協力を得て、平田高校・中学校に情勢に応じて避難を実践的に行い、夜間想定火災避難訓練も行い、災害対策取り組みの訓練は実践的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損なわないような声掛けに努めている。不適切なケアが虐待につながる事の周知をおこなった。	利用者のプライバシー、誇りの尊重、人間の尊厳を大切にする声掛けを実践し、日常の不適切なケアが虐待と受け取られる又虐待につながる事案を挙げながら、本人を傷つけないケアの対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表しやすい関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向・希望を聞きながら一人一人のペースに合わせた生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたい方の化粧を手伝ったり、化粧品購入の支援をしている。また、散髪時にはどのように切ったらよいか本人の希望を確認している。服は自分で選んでもらったり、好みに応じた服を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで同じメニューを摂っている。利用者に野菜の下準備や盛り付けをしてもらうようにしているが毎日行えていない。	献立表は食欲がわくメニューを工夫し、利用者は調理の下準備や盛り付けに有する力を発揮し、食事の用意は利用者個々の力に合わせて行い、同じテーブルを囲み食事を楽しむ雰囲気づくりを職員は大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり主食や副食の量を変えたり、摂取しやすい形状での提供を行っている。苦手な食べ物がある方には代替品を提供している。お茶が苦手な利用者には好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助にて毎食後の歯磨き・義歯洗浄をしている。また週1回義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をすることで一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう努めている。	排泄記録表から昼間、夜間の排尿・排便のトイレ誘導、ポータブル誘導ができるようにして、おむつ・パット、リハパン使用も本人に合わせて検討し、職員は排泄自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分摂取の働きかけを行っている。必要に応じて下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中から午後にかけて入浴を行っている。時間の希望があれば添うようにしている。	利用者の生活習慣や希望に合わせた入浴時間を把握し、職員の都合によらないで、午前は10時から、午後は2時から時間帯に1日置き週3回から4回の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望にて休息してもらうほか、体調によっては職員の判断で休んでもらうこともある。夜は室温調整、寝具などに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人記録にファイルし、全職員がすぐにわかるようにしている。また、薬の変更時は業務日誌記入し注意点や観察点を明記している。確実に薬が飲めるよう個々に応じた支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や好みを考慮しながら家事的作業の役割分担をしている。利用者の状況に合わせたレクリエーションに参加していただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の外出希望には添えないことが多い。外出希望があれば電話で家族に伝えている。	今日を希望される外出支援は困難である場合が多くあり、家族には電話で本人が希望されている今日の外出を連絡し、対応困難の理解に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族了解のもとお金の管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時は電話できるよう支援している。手紙のやり取りについても支援している。家族の意向にも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節に合わせた飾りや絵を掲示し、玄関には外出時や行事の写真を飾っている。ウッドデッキでは季節の花を育てている。	共用空間は、廊下、ホール等は、季節に合わせて飾りやぬり絵が掲げられ、玄関は生活感や季節感を採り入れた施設行事写真や外出写真等が掲示され、居心地よく過ごせる場を整える支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	セミパブリックスペースは不足しているため、食事時の席は決まっているが、レクリエーションなど場合によって席を変わってもらう、居室以外で独りになりたい利用者には玄関ホールに案内している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や使いやすい収納用品が持ち込まれている。また、テレビ・写真・人形・カレンダー等本人好みの空間作りをしている。	居室は、本人と相談しながら好みの調度品等が持ち込まれ、飾られた懐かしい写真等は思い出を彷彿させて、居心地よくその人らしい居室づくりの支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており手すりが設置され中庭はウッドデッキを敷いてホールから段差なく出られる様になっている。個々に応じて居室からトイレの場所等がわかりやすいよう案内を貼る等工夫している。		